

平成29年中の荏原消防署管内火災状況

はじめに ～火災件数は昨年より12件減少、開署以来3番目に少ない～

平成29年中の火災発生件数は25件で、前年の37件から12件減少しました。昭和7年の荏原消防署開署以来、平成27年と並び過去3番目に少ない火災件数となりました。

火災による死傷者 ～半数が高齢者の方々～

火災による死者はなく、けが人は7名発生しています。

火災によるけが人の年齢を見ると高齢者が過半数を占めています。

主な火災原因 ～放火・たばこ・ガステーブル・電気機器～

平成29年中の主な出火原因は、主に「放火（疑い含む）」が6件と、前年から2倍に増加しています。「たばこ」は5件で前年より2件減少し、「家庭用のガステーブル等」の件数は4件で前年から半減しています。「電気関連の火災」は4件で前年から3件減少しました。

ガスこんろ等

●【こんろに鍋をかけたまま放置】

調理中にその場を離れたため
油が過熱して出火



〈火災を防ぐには〉

- 1 調理中は**その場を離れない！** 離れる場合は**点火スイッチを切る！**
※飲酒時は特に注意！ 鍋を火にかけてそのまま寝込み火災が発生
- 2 過熱防止装置など安全機能付（S iセンサー付き）のガステーブルを使用する。
※平成20年4月より製造されるガスこんろは、すべて「S iセンサーこんろ」となりました。（持ち運びできる卓上一口こんろは除く）

●【こんろ周りの可燃物が炎に接触】

こんろ周囲に、布巾やサラダ油などの可燃物を置いていたために、可燃物が炎に触れたり、炎の放射熱により出火

こんろ周りに、サラダ油や調味料、布巾、まな板など可燃物がたくさん！



〈火災を防ぐには〉

ガスこんろの周囲に物を置かない。整理整頓する。

●【衣類が着衣に着火】

調理中に衣服が炎に触れて出火



〈火災を防ぐには〉

- 1 調理中は、マフラーやストールなどは外し、すそや袖が広い服を着ている時は炎に接しないよう注意する。
- 2 火が接しても着火しにくい防炎品のエプロンやアームカバーを使う。
※「防炎品」は、各量販店や池袋、本所防災館などで販売しています。

たばこ

●【完全に消えていない「たばこの吸い殻」をごみ箱に捨てる】

灰皿などでもみ消したたばこの吸い殻を、そのままごみ箱に捨てたために、完全に消えていない吸い殻の火種が紙など周りのごみに燃え移り出火



〈火災を防ぐには〉

- 1 喫煙の際は、あらかじめ水を張った灰皿を用意し、吸い殻は完全に消す。
- 2 吸い殻を直接ごみ箱に捨てず、水に浸すなど完全に消えていることを確認してから捨てる。
- 3 灰皿内のたばこの吸い殻は、専用の「吸い殻収集缶」などに捨てる。

●【たばこの火種が落下する】

寝たばこや、飲酒時の喫煙の際、たばこの火種が布団やこたつ布団に落下して出火



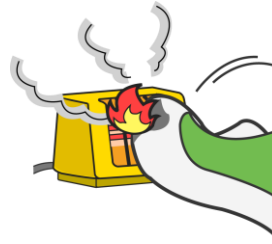
〈火災を防ぐには〉

- 1 寝たばこは絶対にしない。(火種が落下します。)
- 2 たばこを吸いながら室内を歩き回らない。(火種が落下します。)
- 3 灰皿を吸い殻でいっぱいにならない。
(残っている火種が燻ると、熱でガラス製の灰皿が割れ、周りの可燃物に燃え移り火災になります。)

電気関連（車両の電気関連除く）

●【電気ストーブに衣類が接触】

電気ストーブに布団や衣類が接触して出火

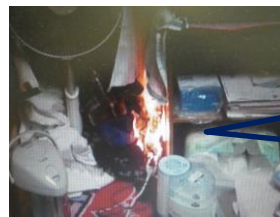


〈火災を防ぐには〉

- 1 電気ストーブや白熱灯など熱を出す機器の周囲に可燃物を置いておかない。
※ 電気ストーブの上部に衣類など物を干さない。
- 2 電気ストーブをつけたまま就寝しない。就寝時は必ず切る。
- 3 外出時は、必ずコンセントから電気ストーブのコードのプラグを抜く。
※ 地震時に物が落下するなどしてスイッチが入る場合があります。

●【電気コードがショート】

電気コードの踏みつけ、折れ曲がりなどによりコードの被覆が損傷してショートし出火



電気コードが棚に踏まれショート。

●【LEDランプが発熱】

グロースタータ式照明器具に、ラピッドスタータ式専用LED蛍光灯を取付けたため発熱して出火



〈火災を防ぐには〉

- 1 電気配線コードを踏まない、折り曲げない、束ねない。
- 2 差込みプラグは、使用時以外はコンセントから抜くようにする。長時間差したままのプラグ等は、定期的に点検し、乾いた布等で清掃する。
- 3 電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない
- 4 機器を使用する際は、必ず取扱説明書（注意書き）をよく確認して使用する。

放火

マンション敷地内のごみに放火され出火



放火されやすいもの

- ・車両や自転車のカバー
- ・段ボールなどのごみ

〈火災を防ぐには〉

- 1 敷地内の門扉、車庫のシャッター等の閉鎖及び施錠をする。
- 2 塀等のない建物の周囲に段ボールなど燃えやすいものを置いておかない。
- 3 自転車や車両を覆うカバーは防火品にする。
※ 死角となる場所に防犯用感センサーライトなどを設置

清掃車の火災

昨年中の清掃車の火災は2件発生。
いずれも回収されたごみに起因する火災。



【原因】

エアゾール缶	ガスが残っているエアゾール缶が圧縮時に破裂、内部のガスが噴出し回転板の火花に引火し出火
ライター	圧縮時にスイッチが入り周囲のごみに着火
リチウムイオン電池	廃棄パソコンの電池が圧縮され内部でショートして出火

〈火災を防ぐには〉

ごみの分別方法や廃棄方法を確認し適正に廃棄する。

火災から命を守る「住宅用火災警報器」

- 住宅用火災警報器は、煙や熱を感知して火災を知らせてくれます。
- すべての住宅に設置しなければなりません。
- 東京消防庁管内での設置率は現在約8割です。

〈奏功事例〉

住宅の居住者が、台所で鍋に火をかけたまま、その場を離れたため、火災となった。台所に設置された住宅用火災警報器が火災を感知し、鳴動したため、居住者が火災を発見し、119番通報と初期消火を行った。



1 まだ設置していない住宅は早急に設置する。

※量販店などで購入できます。取付け方法などのご相談は、荏原消防署までお問い合わせください。

2 すでに設置されている住宅では、いざという時に作動するよう点検する。

※点検の方法は

- ・ほこりなど汚れが目立ったら、乾いた布でふき取る。
- ・テストする。(ボタンを押したり、ひもがついていれば、ひもを引いてみる)
- ・音が鳴らなければ。

(故障か電池切れの可能性もある。新しい電池に交換してみる。)

※住宅用火災警報器本体の寿命は、おおむね10年です。